第４回「つづり方のポイント② ～「長音」のつづり方～」

ナレーション：
「おおの」さんは、ローマ字でどのように書くか。
日本語の音の長短、音を伸ばすかどうかを、ローマ字でどのように表記するかについては、
様々なつづり方が使われてきました。
令和７年の内閣告示改定では「長音」のつづり方について、二つの方法が示されています。

女性：
今回は「長音」、つまり、伸ばす音のつづり方を見ていきます。
日本語では、音の長短、音を伸ばすかどうかが意味の違いにつながることがありますが、
ローマ字表記では、十分に区別できていない場合がありました。

例えば、「おおの」さんは、本来であれば、
長音であることが分かるように符号を付ける必要がありますが、
「おの」さんと同じように「Ono」と書かれる、といったケースです。

男性：
確かに、正確に伝えるという点では、つづり方が難しい場合がありましたね。
今回の改定では、長音を確実に示すための方法として、二つのつづり方が示されています。
一つ目は、母音字の上に「マクロン」と呼ばれる横棒型の符号「¯」を付ける方法です。

これは今までの考え方を重視するとともに、
公共の表示などで広く使われている現状を踏まえたものです。
なお、情報機器での入力など、「¯」（マクロン）の使用が定着するまでは、
旧内閣告示と同様に、山形の符号「 ˆ 」（サーカムフレックス）を用いても差し支えありません。

もう一つの方法が、母音字を並べて書く方法です。
この方法は、符号を使わないときにも長音を表すことができます。

その際には、現代仮名遣いと同じつづり方で、
一つ一つの仮名をそのままローマ字に置き換える方法が採用されています。
例えば「大雨（ooame)」や「王様（ousama)」「大道具（oodougu)」は、
ここに示すように表します。
情報機器での入力とも通ずる方法と言えます。

女性：
はい。また、「にいさん」や「しいたけ」のように、イの音が続く言葉については、
ローマ字でも「 ii」と母音字を並べて書くつづり方が、

既に広く使われているとして、その表記に従うこととされています。

「時計（tokei）」や「平成（Heisei）」の「ei」については、
音としては伸ばして聞こえることがあっても、
表記は従来どおり「ei」と書くのが一般的とされており、
「母音を並べて書く」つづり方が採用されています。

女性：
なお、オ列（オ段）の長音に「h」を用いる書き方が見られますが、
オ列以外ではほとんど用いられていません。
また、「h」がハ行の子音字として用いられるため、誤読を避ける必要が生じることからも、
統一的なルールとしては採用されていません。

男性：
ただし、そうした表記を個人や団体が用いることについて、
否定したり、変更を求めたりするものではない、という点も示されていますね。
これまでの慣習や当事者の意思を尊重する、という立場が採用されています。

女性：
大切なのは音の長短、音を伸ばすかどうかを区別したいときに確実に区別できるということです。
今回の改定では、そのための考え方が、整理して示されたと言えます。

男性：
伝統的な方法と、現代の使用環境に対応した方法。
この二つを併せて示すことで、長音を示すための選択肢が明確になりましたね。

女性：
次回は最終回。
これまで見てきた考え方を、過去の表記や、特殊な事例と結び付けて整理します。